

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



KEIWA COLLEGE REPORT

第39号

July 2004

敬和カレッジ・レポート

発行／敬和学園大学広報委員会



フィジーで家を建てる

CLOSE UP

「聖堂の思い出」 国際文化学科 岩倉 依子

海外ボランティア活動報告

入学式・新入生オリエンテーションのご報告

新任教員のご紹介 伊藤敦美、マシュー・ミラー

2003年度決算及び2004年度予算／後援会総会のご報告

北嶋藤郷 著書のご紹介／オープン・キャンパスのご案内

2004

学バス「オレンジ号」



もうすぐ巣立ちます

JR佐々木駅から大学まで、授業のある日は毎日、2台の学バスが学生たちを送り迎えしています。そんな学バスにハクセキレイが巣づくりを始めたのは、5月上旬です。親鳥が卵をあたためはじめると、バスを運転する職員も卵やヒナがこぼれ落ちないかと、毎日冷や冷やしながら細心の注意を払って運転していました。6月上旬には、5匹のヒナも無事に巣立ち、学バスの巣もその役目を終えました。ハクセキレイの学バスへの巣づくりは、実に8年ぶりのことです。毎年、大学から巣立っていく学生同様、また大学に遊びに来てくれることを教職員一同、楽しみにしています。

もくじ

CLOSE UP 「聖堂の思い出」 岩倉依子	1	2004年度 後援会総会のご報告	10
海外ボランティア活動報告	4	チューリップの花絵に挑戦	10
入学式のご報告	6	北嶋藤郷共著「アースキン・コールドウェル研究」のご紹介	11
新入生オリエンテーションのご報告	6	オープン・カレッジのご案内	11
新任教員のご紹介 伊藤 敦美先生	7	オープンキャンパスのご案内	12
マシュー・ミラー先生	7	学事予告・寄付者ご芳名	12
2004年 教員採用実績	7	キャンパス日誌	13
敬和学園大学 2003年度決算及び2004年度予算	8		

<表紙写真> 「フィジーで家を建てる」

学生と教員がフィジーでのボランティア活動に参加しました (p.4)

聖堂の思い出

国際文化学科 助教授 岩倉依子



●スイス・湖畔の聖堂

もう二〇年も前のことである。二〇時間以上での空の旅を終えて、私が最初にヨーロッパに降り立ったのは、スイス、チューリヒの空港であった。ドイツでの語学研修を始める前に、私はどうしてもスイスの知人を訪ねてみたかったのである。

チューリヒから電車と船を乗り継いだところの、湖を囲むようにぶどう畑がひろがる小さな村が、彼女の生まれ故郷だった。多くの村人と同様、彼女の家も代々続くワイン醸造農家である。湖面の聖ペテロ島を見下ろすその村には、初夏の澄んだ空気と青い空がひろがっていた。

夕方私は彼女に連れられて、湖畔の高台に建つ小さな聖堂を訪ねた。十二世紀に建てられたというその聖堂は、おそらくロマネスク様式だったのだろう、薄暗い内部には、ようやく輪郭をたどることのできるキリストの壁画が描かれていた。

その時そこに突然、オルガンの音色が響きわたつたのである。あれはたしかバッハのプレリュードだったような気がする。石の壁をつんざくような響きに思わず後ろを振り向くと、聖堂後方の中二階で、中年の男性がパイプオルガンに向かっていた。「私の兄です」と彼女がささやいた。たしかにそれは、先ほど挨拶をしたばかりの彼女のお兄さんだった。翌日の礼拝のための演奏の練習をしていたのである。

絵のように美しいスイスの風景も、しづかにたたずむ古い聖堂も、みな私が予期したとおりの「ヨーロッパ」であった。私はこの出会いに感動はしていたが、それは「驚き」とよべるものではない。しかし、ぶどう畑やワインの樽を管理する市井の人々がパイプオルガンを弾いているその姿は、私にとって最初の「カルチャーショック」であった。教会音楽という文化が、このようないよーロッパの市民の中に根を下ろし、市民によつて支えられているのである。

●ウルムの大聖堂

南ドイツの町フライブルクでの語学研修を終えると、私は西ドイツ（当時）のほぼ中央に位置するマールブルクで大学生活を始めた。



スイス・湖畔の聖堂にて

その後も私はドイツの留学先の大学町で、学生たちが礼拝で見事なパイプオルガンの演奏を奏でるのを耳にし、スイスでの経験が決して例外ではなかつたことを知つたのである。

その後も私はドイツの留学先の大学町で、学生たちが礼拝で見事なパイプオルガンの演奏を奏でるのを耳にし、スイスでの経験が決して例外ではなかつたことを知つたのである。

CLOSE UP



ウルムの大聖堂

まり、完成したのは、なんと一八九〇年である。中世市民の聖堂への熱い思いは、後世のウルムの市民にも受け継がれ、五世紀もの時をへて最終的実現をみたのである。たしかに十八世紀の大聖堂の図版にさえ、現在の高い塔はまだみられない。世界一の塔をもつ聖堂になったのは、ようやく十九世紀の建設最終段階になつてのことなのである。

大聖堂前の広場に立つた私は、天に吸い込まれそうな尖塔を真下から見上げ、その頂上までのぼる決意をかためていた。

ヨーロッパの聖堂の塔には、たいてい最上部まで螺旋階段がついている。一六一メートルの高さをもつウルムの塔も例外ではない。

大聖堂の一階に広間があり、そこを出ると螺旋階段がはじまつた。灰色の石の階段をひたすらのぼつてゆく。上をみればはてしなく階段が続き、下をみれば彼方の町の屋根はもう豆粒のようである。しだいに膝が震え、胸の鼓動は高鳴り、しまいに足はもう動こうとしない。それでも私は鉛のように重い足を引きずり、なんとか頂上の展望台にたどりついた。

眼下には、ドナウの悠然とした流れがどこまでも続いている。それは、空の高みから一人地上を見下ろすような、不思議なパノラマだつた。

聖堂は、今も昔も町のランドマークである。そして、今も昔も、「市民の誇り」に違いない。

中央の大聖堂に向かつた。ウルムの大聖堂は典型的なゴシック建築で、世界で最も高い塔をもつことで知られている。

ウルムは、市民たちが自治を行つたドイツの代表的な中世都市の一つである。十四世紀に、人口が二万人にも満たなかつた（当時としては「大都市」であったが）この都市の市民たちは、自分たちの教区教会として、二万九〇〇〇人も収容できる巨大な聖堂を建てたのである。

中世の市民たちは、自分たちの都市の威信を示すため、みずから資金を集め、他の都市よりも高い塔をもつ、より美しくより大きな聖堂を建てようと競い合つたといふ。それは市民にとっての自己実現でもあつたのだろう。

ウルムの大聖堂の建設は一三七七年に始



ウルムの大聖堂

マールブルクに住んだのは一学期だけであつた。次の学期から私は、そこからさらに北東に位置する、当時の東ドイツとの国境に近いゲッティンゲンの大学に移つた。

この町も、古いたたずまいを残す中世都市である。現在人口十三万人程のこの町の旧市街は、一時間もあればひとめぐりできる大きさだが、そこにはいくつかの聖堂がそびえている。その中のひとつが聖ヨハネ教会である。この聖堂は十四世紀のゴシック建築で、町の中央に、やはり中世以来の旧市庁舎と背中合わせに建つっていた。

キリスト教の聖堂は西側正面に必ず塔を備えている。ここから響く鐘の音が、中世の人々に「時」を知らせていたのである。ウルムの大聖堂の塔は一本だが、この聖ヨハネ教会の塔は二本である。しかもこの二本の塔は屋根の形が異なり、一方の塔にだけ展望台がついていた。ウルムの塔の高さには到底およばないが、町を見下ろす尖塔にまでおぼりはない。

この聖ヨハネ教会では、毎週土曜日だけ螺旋階段への扉が開かれていた。ある週末、私はこの塔の展望台へとのぼつていった。

CLOSE UP

すると驚いたことに、螺旋階段の上に方にドアがあり、その向こうで、二、三人の学生がテーブルを囲んでお茶を飲んでいる。二つの塔の間に部屋がつくられていて、そこが学生の下宿部屋になっているのだ。

実はこの部屋はかつて、町の「見張り」が住むための部屋であったという。「見張り」は、塔の上から日々町をながめ、火事などの異変を発見する役割を担っていたのである。

「見張り」も不要となつた現代、教会は、住宅不足に悩む学生に部屋を貸し与えているのだろうか。見れば、一人の学生が長いロープで、水の入ったバケツを下から引き上げている。この現代に石の塔に住み、しばし「中世」を享受する、幸運な学生たちである。大学町ならではの光景だろう。

ところで、十月三十一日は宗教改革記念日である。一五七七年のこの日、ルターはヴィツテンベルクの教会の扉に「九十五条の提題」を打ちつけ、宗教改革がはじまつたとされている。

ある晩秋の日の夕刻、私はたまたまこの聖ヨハネ教会の近くを歩いていた。すると、この塔の上から、ルター作でよく知られる讃美歌のメロディーが、トランペットの高い音色にのって、暮れゆく空に響きわたつた。その時は、その日が宗教改革記念日であることに気づいたのである。周囲をみれば、立ち止まる人は誰もいない。私はトランペットの調べに耳を傾けながら、ゆっくりとそこを通りすぎて行つた。忘れられない夕暮れのひとこまである。



ゲッティンゲンの聖ヨハネ教会の尖塔

らも、その伝統を維持している。しばらく前、日本に留学したことのあるドイツの友人が言った。「私は日本に来て初めて、自分がキリスト教徒であることに気づきました」。聖堂の町で生まれ育ったヨーロッパには、否応なくキリスト教文化がしみ込んでいた。それは彼らのアイデンティティであり、キリスト教はこれからもヨーロッパのアイデンティティであり続けるだろう。

●ヨーロッパのアイデンティティ

岩倉 依子 助教授 プロフィール

●最終学歴

お茶の水女子大学大学院

人間文化研究科博士課程修了

●研究・演習のテーマ

ドイツ宗教改革史を研究。ゼミでは、ヨーロッパ中世から近世への移行の時代を画するルネサンスと宗教改革を取り上げ、そこに現れる新しい人間像や人々の心性について考察する。

●主な担当科目

欧米文化史、キリスト教史、ヨーロッパ研究B、文化論演習など

時代は変わり一十一世紀のヨーロッパで、教会が果たす役割は、はるかに小さい。しかしそれでも、ヨーロッパのあらゆる町や村に教会は今なお存在し、形を変えながらも、その伝統を維持している。

ボランティア

ア活動報告

「ア・サークル」(略称KIV)が誕生しました。ト・フォー・ヒューマニティの活動に参加し、家を建てるための労働を提供することです。クッキー販売などを通じ、また学内外の人々にこの基金は、家の資材費用にあてられ、ツ本学英語教員イミー・ジェンキンス先生をリ12名のチームができ、2月26日から3月5日ま

車で3時間ほどのナレワ村に滞在し、家作りにいいうイメージですが、それはほんの一面に過ぎれぞれの「得意分野」で語ってくれました。

斐ジーの気候は高温多湿で典型的な熱帯雨林気候です。汗をかくので毎日2㍑の水を飲むように言わされました。事前の情報では一~三月は雨季ということでした。たぶん毎日雨ということもありませんでした。ただ、スコールは毎日きます。山の方からザーッと近づいて、辺りは水浸しです。それと、スゴイのが蚊! 毎日さされます。でも、一日もすれば全く気にならなくなりました。むしろ心地良いくらいです!

村は山や木々に囲まれて、まさに緑一色です。牛、馬、犬、猫、鶏は放し飼い、でも豚だけは小川の向こうの木に繋がれています。ちょっと可哀想。村の中、心を流れる川には一〇~二〇cm程度の魚やエビが泳いでいましたし、カエルもいっぱいいました。夜になれば電燈の周りにはヤモリが出てきます。家の中では不ズミが猛ダッシュ。でも僕には最高の村でした。

(吉田友祐)

とにかく斐ジーは暑いので、私たちは毎朝早く作業を開始し、日中お日様が高い時間は休み、再び午後から暗くなるまで作業を続けました。暑さと疲労で体調を崩しました人もいましたし、私は食べ物でアルギーを起こしました。でも、ツアーメンバーの石川先生は医師でもあるので、その点はとても安心でした。

NGO側で事前に終わっているはずの土台作りが残っていたため、進行予定がずれ、さらに村人に不幸があり、工事期間が二日も短くなりました。そのため、完成までには至りませんでしたが、精一杯仕事をした充実感はなんとも言えません。(松澤貴祥)

●カヴァの儀式

歓迎やお祝いの儀式に必ず登場するドリンク、それが「カヴァ」です。胡椒科の木の根を乾燥させて水に浸し、エキスが出た液体を飲むのです。水に土を溶かしたような色で匂いはほとんどありません。

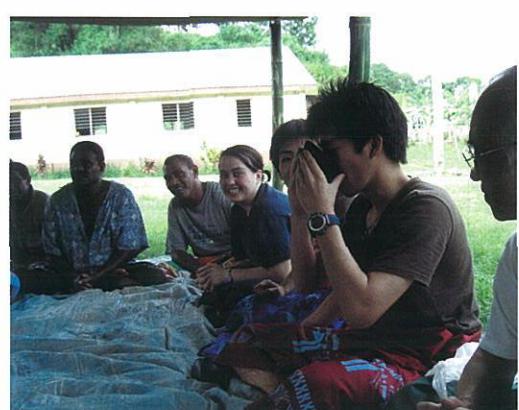
儀式なので、飲む前と後に決まった回数手をたたく等の作法があり、最初は緊張しました。実際に飲んでみると、味は漢方薬みたいでした。沈静作用があるそうで、飲んだ後に舌がしげれました。

●斐ジーの自然

斐ジーの気候は高温多湿で典型的な熱帯雨林気候です。汗をかくので毎日2㍑の水を飲むように言わされました。事前の情報では一~三月は雨季ということでした。たぶん毎日雨ということもありませんでした。ただ、スコールは毎日きます。山の方からザーッと近づいて、辺りは水浸しです。それと、スゴイのが蚊! 毎日さされます。でも、一日もすれば全く気にならなくなりました。むしろ心地良いくらいです!

とにかく斐ジーは暑いので、私たちは毎朝早く作業を開始し、日中お日様が高い時間は休み、再び午後から暗くなるまで作業を続けました。暑さと疲労で体調を崩しました人もいましたし、私は食べ物でアルギーを起こしました。でも、ツアーメンバーの石川先生は医師でもあるので、その点はとても安心でした。

●家作り



斐ジーの味を堪能

●礼儀作法とホームステイ

初めて「カヴァ」を見たときは抵抗がありました。しかし、「斐ジーの味」を楽しんで帰ろうと思い、大量に飲んできました。一部の人は「カヴァ」を飲んで腸の具合が良くなつたとか…。日本では飲むこともないかもしれません。しかし、機会があつたら挑戦してみることをおすすめします。(高倉幸子)

村に滞在するのに気をつけなければいけないことがあります。帽子は取る、カバン類は肩にかけず手に持つ。これは、「頭からつま先に向かつて悪いものが出ていく」という言い伝えに由来しています。これらの作法については事前に知らされていましたが、失礼がないかとドキドキしました。その他、家の出入口で腰をかけて靴を脱いではいけない、部屋の中で移動する時は、人の前を、手を前に出して腰を曲げ、「ト

ボランティア

海外ボランティア

本学に昨年「敬和インターナショナル・ボランティア」主な目的は、国際的なNGO組織である「ハビタート、住む家がない海外の人達に簡素な住まいとそれを手伝う。私たちは、フリー・マーケットや敬和祭での屋の協力も得て30万円の基金を得ることができます。アーチャー費用は自己負担です。この企画の立案者である一に、学生6名、教員4名、学外の方2名、合計で約10日間のフィジーへのツアーが実現しました。

チームはフィジー第二の都市ナンディの空港から出発しました。フィジーといえば、南太平洋の楽園と聞こえます。参加した学生たちがフィジーでの体験を

いました。できた鶴を見ると「わあー、すごい」と喜び、「私の作って」「私の見て」と、暗くなるまで折り紙をしていました。次の日、彼らは私を見ると「Asam i！」と大声で呼んでくれました。その後は毎日のように子供たちと一緒に遊びました。私たちが村の外れのバス停や建設現場に行く時には、必ずついて来て、歌を歌ったり、踊ったり、近くのグアバという果物の実を取ってきてくれたりします。カメラを向けると一瞬にして、最高の笑顔を向けてくれます。私も毎日、本当に心からの笑顔で過ごすことができました。今でも子供たちの「ブラーー!」、「Asam i!」があの笑顔と共に聞こえてくるような気がしました。

ウローラー、トウローラー」と言いながら通る、などのきまりがありました。これらを意識するだけで疲れるくらい緊張しましたが、ホストファミリーは笑顔を絶やさず、私達にいろいろと気を使ってくれました。

夜はみんなで蒲団を並べ、まさに雑魚寝でした。蚊帳をつって寝たのですが、そのうちに蟻や小さな虫がたくさん集まってきた。蚊帳だけではとても間に合いませんでした。でも、睡魔に勝てず虫と一緒に寝ました。

村の中での暮しは時間がゆっくりと流れています。人々の心も同じように豊かだと感じました。人々の顔一杯の笑顔を見ると、こちらも自然と笑顔になれる、そんな温かさをもらつた気がします。

(岩井美春)

人との笑顔でした。子供たちは裸足で村中に入つてまづ目に入つたのは大自然と



最高の笑顔！

をかけまわり、私たちを見ると、「ブランティアー!」（こんにちは）と言ひながら恥ずかしそうに近寄つきました。初日、私たちは子供たちと一緒に日本の折り紙で鶴を折りました。できた鶴を見ると「わあー、すごい」と喜び、「私の作って」「私の見て」と、暗くなるまで折り紙をしていました。次の日、彼らは私を見ると「Asam i！」と大声で呼んでくれました。その後は毎日のように子供たちと一緒に遊びました。私たちが村の外れのバス停や建設現場に行く時には、必ずついて来て、歌を歌ったり、踊ったり、近くのグアバという果物の実を取ってきてくれたりします。カメラを向けると一瞬にして、最高の笑顔を向けてくれます。私も毎日、本当に心からの笑顔で過ごすことができました。今でも子供たちの「ブラーー!」、「Asam i!」があの笑顔と共に聞こえてくるような気がしました。

村のお年寄りが亡くなられて、私たちに一日間の予期せぬ休日が与えられました。一日目は、みんなで洞窟に向かいました。トラックの荷台に乗つて、曲がりくねつたデコボコ道をすごいスピードで駆け抜け川を筏で渡り、山を登り、ようやく着きました。水中を潜り抜けて洞窟の奥に入ると、懐中電灯の光ごとに冷たくて、原始的で不思議な景色がそこに現われました。私が感じた氣味の悪さは、この洞窟で、昔、人肉を料理したとか、預言者が暮していたなどと聞いたからかもしれません。

次日の日にはカラフルな鳥がたくさんいる野鳥園に行きました。私は大の鳥好きなので、そこはパラダイスのようでした。イグアナやヘビまでいたのですが、おとなしく、私たちが抱くこともできました。

最終的には、村を離れて海辺のリゾートに行きました。目の前に広がる真っ青なビーチとヤシの木、そしてフィジアン・ミュージック。プールで泳いだり、買い物に行つたり、夜は現地の踊りを見たり、思いつきクリスマス気分を味わいました。ただ、ホテルの食事の時、メンバーの「こここの食事もおいしいけど、ホームステイでの食事の方がずっと心がこもっていた」という言葉にみんな深く頷いたことを思い出します。何をしても楽しかったフィジーでの日々はあつという間でした。

●休日

ます。ナレワ村の子供たちと過ごした日々は、決して忘ることはないでしょう。「ヴィナカ！」（ありがとう）（余湖麻美）

（中野温子）

●子供たち

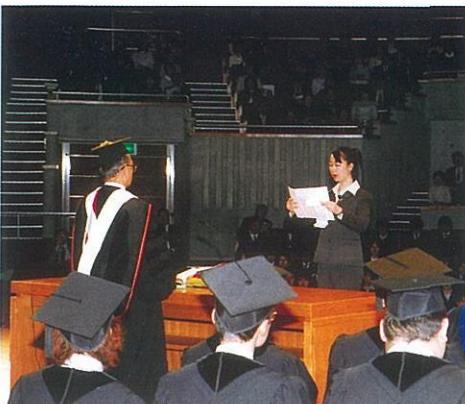
入学式

入学式のご報告

去る四月五日（月）、二〇〇四年度の入学式が、新発田市民文化会館を会場にして挙行されました。例年、本学の入学式と卒業式の会場は、新発田市、聖籠町の施設を利用させていただいております。これは、敬和学園大学がこの地域に誘致していただいた大学であるからです。本学は、全国にむかって、世界にむかって開かれた大学であると同時に、この地域に奉仕する大学でありたいと考えています。

前奏とともに学長はじめ本学教員と来賓の方々が壇上に入場し、厳肅な雰囲気のなか入学式が始まりました。

新入生代表として国際文化学科一年の高橋ゆきさんが、「これから始まる四年間で、



宣誓 新入学生代表 高橋 ゆきさん

去る四月二十二日（木）二十三日（金）に、恒例の新入生オリエンテーションが胎内で行われました。今年は出発前に、新入生諸君がこの大学でいきいきと成長していくことを願って、入学記念植樹式を行ないました。本学ニューエル館の時計台前のスペースに新入生全員と教職員とで「ユリノキ」を植えました。新井学長の提唱により昨年度からはじめたこの植樹式はこれらの一連行事となるでしょう。

植樹式の後、新入生が自然の中で充分に体を動かしてリフレッシュし、友達をたくさん作ることを目的としたオリエンテーシ

他者を尊敬し、自分を思うように他人を大切にする「内なる光」を大切にしていきたい」と宣誓を行いました。引き続き新井学長からの式辞が述べられた後、地元の片山新発田市長様、渡邊聖籠町長様からの祝辞をいただき、また多数の祝電も披露され、これからの大学生活を迎える新入生たちを歓迎してくださいました。さらに敬和学園高等学校の有志による「ハーレルヤ・コラス」が披露され、式典を盛り上げました。

今年度は、共生社会学科が新設され、從来の英語英米文学科を英語文化コミュニケーション学科に名称変更してから最初の入学式になりました。新しい教育体制による国際教養人の育成とともに、今後とも地域に根ざした大学を目指します。

新入生オリエンテーション

ヨンに出発しました。

初日のボランティア講演は、^{とんどうら}遁所直樹さんによる「もとめるもの、もとめられるもの」のお話でした。遁さんは学生時代に大げがをして、首から下が動かなくなり電動車椅子の生活です。それでも自立支援センターをNPO法人にして、その副理事長として活躍されています。自分を支えてくれている父親を含めた多くの人への感謝を淡々と話されました。

二日目は十七の学生団体が参加して趣向を凝らしたクラブ紹介が行われた後、恒例の新入生クラス対抗綱引き大会が行われました。学生と教員が一緒になって大いに盛り上がりました。優勝は松崎チームで、昨年に引き継いでの二連覇を果たしました。



2004年度入学記念樹「ユリノキ」

新任教員

人はなんで勉強するの？



専任講師
伊藤 敦美

みなさんはじめまして。私は、今年の三月に新潟大学大学院現代社会文化研究科を修了して、四月から英語文化コミュニケーション学科の教職に関する科目を担当しています。新潟での生活は四年目ですが、雪道の運転が苦手で、今から冬の心配をしています。

専門は教育学です。「人はなんで勉強するの？」という疑問は、私が教育学を研究しようと思った理由の一つです。いまだに明確な答えは見つかっていませんが、大学生活を通してヒントは見つかりました。

自分で選んだ大学で、自分で選んだ授業を受け、自分で選んだゼミで卒業研究をすることによって、「勉強っておもしろいのかな」と思うことができました。誰かにやらされるのではなく、自分で主体的に学習することでおもしろさを感じ取ることができました。もちろん自分だけの力ではなく、お世話になつた先生方や一緒に勉強した友だちの助けも大きかったです。勉強をおもしろく感じてからは、どんどん興味がわき、もっと色々なことを知りたくなり、研究を続け、今に至っています。

みなさんも学生生活を通して色々なことを体験したり、考えたりすると思います。そのためのお手伝いができるらしいなと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

新任教員

美味しく、美しく、楽しい新発田



契約講師
マシュー・ミラー

敬和学園大学に来るまで私は東京で七年間英語教師として生活してきました。ですので、新潟県新発田市の大学へ赴任することは私にとっては大きな変化でした。こんなに温かく歓迎してくれて、いろいろ助けてくれて、ありがとうございます。

私の東京の友達は「新潟は米と酒と魚介類が美味しいよ」と言つていましたが、それは本当でした。それに、友達は言わなかつたけれど、こちらの人たちはとても親しみやすく誠実であり、また、こちらは空気がきれいで遠くの山並みが美しいです。教室から、木々や田んぼ、雪をいただいた山々が見えたりして、いまだに感激したりしています。

今年は一～三年生の学生に英語を教え、またリーディングやインターネットの授業も受け持っています。敬和の学生たちは教室の内でも外でも一緒にいて楽しい人たちばかりです。敬和の学生の大多数が外国语に興味があつて、しかもそのうちの多くが海外にも行つたことがあるというのは、ちよつと思いがけず、喜ばしく思いました。

学生、教員、職員の全てのみなさんと知り合いになるのを楽しみにしています。和での任期を楽しく過ごせそうな予感がしています。感謝！

二〇〇四年 教員採用実績

卒業年度	氏名	採用種別	勤務校
2003	石井 彩	教諭	三条市立本成寺中学校
2003	山本 佳英	講師	私立敬和学園高等学校
2003	津野 雅之	講師	豊栄市立岡方中学校
2002	倉嶋 絵美	講師	三条市立本成寺中学校
2002	大場 太士	講師	小出町立小出中学校
2001	小熊 明子	講師	上越市立城東中学校
2001	相馬 さつき	講師	新潟市立閼屋中学校
2000	中村 尚子 <small>(旧姓古澤)</small>	教諭	塩沢町立塩沢中学校
1999	宮崎 麗子	教諭	県立柏崎工業高等学校

少子化が進み、教員の採用がますます厳しくなる中、今年度も多くの卒業生が教員として採用され、県内各地に赴任しています。今春の卒業生からは三名が現役で採用されました。昨年度の教職課程履修の四年生は七名であり、この採用数は大健闘であったといえます。

これは、本学の強みである高いレベルの英語力と、実践的で細かな個別指導とが実を結んだ結果であるといえます。学生は、インターナンシップ、教育実習と四年間を通じて実際の教育現場を体験することによって、教育者としての意欲を高めていきます。

また、これらの成果を活かして学校以外の教育機関、企業の研修関連業務などでも多くの卒業生が活躍しています。

2003年度決算 2004年度予算

二〇〇三年度の決算及び二〇〇四年度の当初予算が理事会並びに評議員会で承認されましたので、ご報告いたします。

昨年同様資金収支計算書及び消費収支計算書の大科目並びに貸借対照表のそれぞれを説明します。増減欄は、二〇〇三年度と二〇〇四年度を比較したものです。

●二〇〇三年度決算

学納金収入は、六二五、一三三一千万円になりました。前年度からは四五、一五八千円の減収です。この科目の中には、科目等履修生八十二名分の授業料も計上されています。

手数料収入は、そのほとんどが入学検定料で占められており、一二、六七九千円となりました。これは前年度からは九〇〇千円ほど増収で、今年度入試の志願者が増加したことによります。

寄付金の大部分が大学後援会からのものです。特に昨年度はC.P.U教室のコンピューターの入れ替えに対し、一〇、〇〇〇千円の寄付をいただきました。卒業生からの寄付金も年々多くなっています。

事業収入は、オープン・カレッジの参加者が大幅に増えたことから増収になっています。また、研究委託料として（財）とや

敬和学園大学 二〇〇三年度決算及び 二〇〇四年度当初予算

消費収支計算書

資金収支計算書

(収入の部)			
科 目	2003年度決算	2004年度当初予算	増 減
学生生徒等納付金	626,231,500	642,400,000	△ 16,168,500
手 数 料	12,679,689	10,617,000	2,062,689
寄 付 金	25,772,947	15,374,000	10,398,947
補 助 金	125,414,386	118,983,000	6,431,386
資 産 運 用 収 入	3,571,161	2,978,000	593,161
資 産 売 却 差 額	298,176	0	298,176
事 業 収 入	8,587,216	3,875,000	4,712,216
雑 収 入	4,263,932	639,000	3,624,932
帰 属 収 入 合 計	806,819,007	794,866,000	11,953,007
基 本 金 組 入 額	△ 44,994,042	△ 59,313,000	14,318,958
消費収入の部合計	761,824,965	735,553,000	26,271,965

(収入の部)			
科 目	2003年度決算	2004年度当初予算	増 減
学生生徒等納付金収入	626,231,500	642,400,000	△ 16,168,500
手 数 料 収 入	12,679,689	10,617,000	2,062,689
寄 付 金 収 入	24,807,601	14,874,000	9,933,601
補 助 金 収 入	125,414,386	118,983,000	6,431,386
資 産 運 用 収 入	3,571,161	2,978,000	593,161
資 産 売 却 収 入	760,371,631	800,000,000	△ 39,628,369
事 業 収 入	8,587,216	3,875,000	4,712,216
雑 収 入	4,263,932	639,000	3,624,932
前 受 金 収 入	171,980,000	183,300,000	△ 11,320,000
そ の 他 の 収 入	13,935,672	18,717,000	△ 4,781,328
内 部 資 金 収 入	3,326,202	3,054,000	272,202
資金収入調整勘定	△ 174,183,985	△ 174,313,000	129,015
前年度繰越支払資金	431,106,670	511,482,670	△ 80,376,000
収 入 の 部 合 計	2,012,091,675	2,136,606,670	△ 124,514,995

(支出の部)			
科 目	2003年度決算	2004年度当初予算	増 減
人 件 費	501,362,245	492,104,000	9,258,245
教 育 研 究 経 費	252,954,848	266,961,000	△ 14,006,152
管 理 経 費	77,929,617	79,626,000	△ 1,696,383
借 入 金 等 利 息	13,764,600	12,757,000	1,007,600
資 産 处 分 差 額	702,441	0	702,441
予 備 費	0	10,000,000	△ 10,000,000
消費支出の部合計	846,713,751	861,448,000	△ 14,734,249
当年度消費支出超過額	△ 84,888,786	△ 125,895,000	
前年度繰越消費収入超過額	939,537,018	849,834,018	
翌年度繰越消費収入超過額	854,648,232	723,939,018	

(支出の部)			
科 目	2003年度決算	2004年度当初予算	増 減
人 件 費 支 出	496,360,245	491,084,000	5,276,245
教 育 研 究 経 費 支 出	142,857,080	156,241,000	△ 13,383,920
管 理 経 費 支 出	67,459,644	68,927,000	△ 1,467,356
借 入 金 等 利 息 支 出	13,764,600	12,757,000	1,007,600
借 入 金 等 返 済 支 出	33,320,000	33,320,000	0
施 設 関 係 支 出	1,065,750	21,711,000	△ 20,645,250
設 備 関 係 支 出	33,954,973	18,782,000	15,172,973
資 産 運 用 支 出	627,904,512	700,000,000	△ 72,095,488
そ の 他 支 出	16,912,372	15,000,000	1,912,372
内 部 資 金 支 出	21,867,829	28,855,000	△ 6,987,171
予 備 費	0	10,000,000	△ 10,000,000
資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 11,858,740	△ 16,162,000	4,303,260
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	568,483,410	596,091,670	△ 27,608,260
支 出 の 部 合 計	2,012,091,675	2,136,606,670	△ 124,514,995

2003年度決算

2004年度予算

ま国際センターから三、〇〇〇千円を受け入れています。

帰属収入から基本金組入額四四、九九四千円を引いた七六一、八二四千円が消費収入の合計額になります。前年度より三八、九六三千円の減収です。

一方支出では、人件費は五〇一、三六二千円で、前年度より一五、六一九千円減少しています。これは、前年度に引き続き行われた人事院勧告に基づくベースダウンと賞与の支給割合の減少等が原因です。

教育研究経費は前年度比一三、五七三千円増加の二五一、九五千円になりました。

これは、特待生奨学金の増加及び建物の耐用年数の変更による減価償却費の増加が主な要因です。

消費支出の合計は八四六、七一三千円となり、前年度より六、六九〇千円減少しております。

この結果、消費支出超過額が八四、八八千円となりました。当初予算では一二七、〇八八千円でしたので、好転したことになります。

学納金については、六四二、四〇〇千円を計上しました。二〇〇三年度よりは十名の増加です。

手数料、寄付金及び補助金については、前年度の実績を踏まえて計上しました。

事業収入の中には、昨年度決算から就職教養講座及び資格取得講座による収入を計上しています。

●二〇〇四年度当初予算

帰属収入は七九四、八六六千円となり、昨年度よりも一一、九五三千円減収の予算になります。学納金以外の収入が減少する見込みとなつたためです。

基本金については、隣接する土地の取得の目途が立つたため、一号基本金に二一〇、〇〇〇千円組入れてあります。(一五、〇〇〇千円は過年度に二号基本金に組入れ済み)その他は大きな事業がありませんので、例年並の組入額になっています。

従つて、消費収入の合計は七三五、五五三千円となりました。

一方支出では、人件費は四九二、一〇四千円となり、昨年度より九、二五八千円ほど減少しています。

教育研究経費については、昨照年度より一四、〇〇六千円多い二六六、九六一借貸対貸を計上しました。主に特待生への奨学金が増加していることが要因です。

管理経費については、ほぼ昨年度並みの計上となりました。

科 目	年 度		科 目	年 度	
	2003年度末			2003年度末	
固 定 資 產			固 定 負 債	421,689,666	
有形固定資産	2,692,470,477		長 期 借 入 金	406,676,666	
土 建 物	2,490,313,098		退 職 給 与 引 当 金	15,013,000	
構 築 物	532,894,320		流 動 负 債	223,183,695	
教育研究用機器備品	1,565,200,793		短 期 借 入 金	36,738,334	
その他の機器備品	20,167,234		未 払 金	10,727,973	
図 書 案	83,501,565		前 受 金	171,980,000	
車 輛	5,640,647		預 金	3,220,688	
その他の固定資産	282,748,535		假 金	516,700	
電 話	160,004		負 債 の 部 合 計	644,873,361	
施 設	202,157,379		第 1 号基 本 金	3,251,425,569	
有 価 証 券	1,104,984		第 2 号基 本 金	15,000,000	
長 期 貸 付 金	280,395		第 4 号基 本 金	64,000,000	
長 期 預 け 金	179,501,000		基 本 金 の 部 合 計	3,330,425,569	
10周年事業引当特定預金	5,400,000		翌 年 度 繰 消 消 収 入 超 過 額	854,648,232	
流 動 資 產	871,000		消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	854,648,232	
現 金	15,000,000		内 部 部 門 勘 定	△ 418,906,285	
未 取 入 金	1,718,570,400				
有 価 証 券	568,483,410				
前 立 金	3,443,985				
假 金	1,145,037,400				
資 產 の 部 合 計	4,411,040,877		負 債 の 部 、 基 本 金 の 部		
			消 費 収 支 差 額 の 部 及 び		
			内 部 部 門 合 計	4,411,040,877	

従つて、消費支出の部合計は八六一、四八千円となり、昨年度より一四、七三四円増加しています。

この結果、当年度消費支出超過額は一二五、八九五千円となりました。
支出超過額は昨年度の当初予算とほぼ同額です。二〇〇四年度も無駄を省き、厳正な予算管理を行いたいと思います。

(総務課長
長澤)

一〇〇四年度

後援会総会のご報告

一〇〇四年度後援会総会が、四月五日の入学式後、新入生保護者を中心に一三八名の出席を得て開催されました。

顧問の後宮理事長、新井学長の挨拶の後、二〇〇三年度決算、二〇〇四年度事業計画及び予算などが審議され、満場一致で承認されました。また、卒業のため、会長他役員が下表のとおり改選されました。私は新会長の倉嶋と申します。微力ではございますが、本会発展のため努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

本会は、在学生保護者で組織され、会の運営はその会費で賄われています。施設の充実、クラブ活動・敬和祭への援助、学生の就職活動支援、本広報誌の発行等、多くの分野にわたり、学生の支援を行なっています。今後ともご協力をお願いいたします。

(後援会長 倉嶋新悦)

科 目	2003年度予算	2003年度決算	2004年度予算
後 援 会 費	20,628,000	21,925,000	21,000,000
寄 付 金	10,000	875	1,000
雑 収 入	1,000	10,000	10,000
収 入 小 計	20,639,000	21,935,875	21,011,000
前 年 度 繰 越	15,540,787	15,540,787	5,787,924
収入の部合計	36,179,787	37,476,662	26,798,924

科 目	2003年度予算	2003年度決算	2004年度予算
事 業 活 動 費	2,500,000	2,557,138	2,850,000
会 議 費	200,000	175,197	200,000
事 務 費	50,000	30,000	50,000
通 信 費	2,000,000	2,238,691	2,400,000
印 刷 製 本 費	2,300,000	2,749,950	2,750,000
手 数 料	20,000	15,400	20,000
学生クラブ補助費	3,000,000	2,000,000	2,000,000
アネックス維持管理補助費	700,000	700,000	700,000
学園祭補助費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
教職員活動補助費	300,000	0	300,000
施設、設備、備品補助費	18,000,000	17,617,200	7,700,000
旅 費 交 通 費	100,000	39,000	100,000
雑 費	509,787	566,162	778,924
予 備 費	3,500,000	0	3,950,000
支 出 小 計	36,179,787	31,688,738	26,798,924
次年度繰越金	0	5,787,924	0
支 出 の 部 合 計	36,179,787	37,476,662	26,798,924

2004年度 敬和学園大学後援会役員名簿

役 職	氏 名	職 業	備 考
会 長	倉嶋 新悦	12回生保護者	新発田市役所
副会長	藤井 達博	12回生保護者	自 営 業 新任
副会長	若槻 好子	11回生保護者	会 社 員
理 事	佐藤 清江	13回生保護者	主 婦
理 事	齋藤 栄路	14回生保護者	新潟市議会議員 新任
理 事	斎藤 吉明	14回生保護者	会 社 員 新任
監 事	大井 重明	12回生保護者	公 務 員
監 事	横山 博子	12回生保護者	(南)ダスキンあやめ 代 表 取 締 役 社 長

顧 問 後 宮 俊 夫 学校法人敬和学園理事長

顧 問 新 井 明 敬和学園大学長



地域の方々と共に花絵をつくり上げました

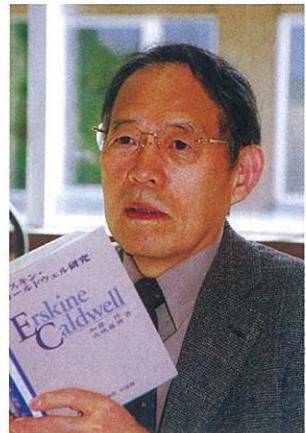
春光うららかな四月二十五日、本学の学生と教職員三十七名で「花絵プロジェクトイン・しばた」に参加しました。昨年、本学生がチューリップの花絵をつくったことをきっかけにし、今年は、新発田市と本学で「新発田市花絵プロジェクト実行委員会」を結成して、新発田市の一大イベントとして、花絵づくりに取り組みました。完成したばかりの新発田城址公園を会場に、小さなお子さんからお年寄りまで、幅広い層の方が参加され、本学の学生がそばでつくり方をアドバイスしながら、きれいな花絵を完成させることができました。翌週には、花絵に使ったチューリップを本学で回収し、今後堆肥として利用させていただきました。

花絵プロジェクトイン・しばた
チューリップの花絵に挑戦

新刊紹介

新刊紹介『アースキン・コールドウェル研究』

加藤修・北嶋藤郷著 奥村印刷出版部 一〇〇三



本学の北嶋藤郷教授がアメリカ南部作家コールドウェルの研究を共著でまとめられました。この本について北垣宗治前学長の特別寄稿を紹介します。

フォークナー、ヘミングウェイ、スタイルックらの活躍した時代は、二十世紀アメリカ小説の黄金時代だった。彼らに伍して作品を発表し、独自の境地を展開した小説家にアースキン・コールドウェル（一九〇三～一九八七）がいる。四人の共通点はすぐれた長編小説だけでなく、同時にすぐれた短編小説を書いたことだ。

アメリカ南部を背景としてフォークナーは『八月の光』のような作品を書いたが、コールドウェルの『タバコ・ロード』と比べる時、どちらもアメリカ南部の物語でありながら、ニュアンスは大いに異なる。フォークナーがストエフスキイを思わせるような人物と状況を創造したのに対し、コールドウェルはその独特的のユーモアと悲喜

劇的雰囲気においてシェイクスピア的である。貧しく、無知で、子沢山で、空腹であるのに、父祖の土地を離れようとしない小作農民。読者は作中人物のむき出しの愚かさに笑いを誘われるが、自分もまた一皮むけば同じ愚かさを持っていることに気付かされる。

『タバコ・ロード』の家族には親子の情愛がまったく欠けていて、その不条理性は徹底している。レスター夫妻の十七人の子供は五人が病死し、十一人が生きているらしいが、現在家には一人の子供だけ。食べ物も与えられず、粗末に扱わながら文句もいわず生きてきたレスター家の祖母は、孫の乱暴な運転のため事故死するが、それを誰も悲しまない。家を出て行つた子供たちは親に送金しないし、居所さえわからない。親たちは息子や娘の情事をさうのぞき見しようとする。

長年コールドウェル研究に取り組んできた加藤修・北嶋藤郷の両氏が、コールドウェルの生誕百年を記念して本書を上梓した。加藤氏が短編・長編小説の概説と作品論を担当し、北嶋氏はノンフィクション、書誌、年譜を担当し、この優れた南部作家の全貌を見事に伝える。なおコールドウェルは生前三度来日しているが、三度目のとき成田空港に単身夫婦を出迎えたのは北嶋氏であった。その時の心温まる回想記が印

今年度も、地元の新発田市、聖籠町をはじめ、豊栄市、三条市、本学を会場として、オープン・カレッジ（公開講座）を開催しています。

五月二十九日からの新発田市オープン・カレッジでは、みなさんのが存知の世界のお話を、その原典や時代背景、作者といった視点から見つめなおす「知つてゆるうで知らない世界のお話」をテーマにし、「七三名」という多くの地域のみなさまのご参加をいただきました。また、六月十九、二十日に大学で行われた「言葉の力と美しさにふれる2」では、福音館書店相談役の松居直先生を講師に迎え、県内外から一五三名のご参加をいただきました。絵本製作の第一人者のいきいきとしたお話に会場は笑いと感嘆の連続でした。また、豊栄市でも、六月一〇日から「食とコミュニケーション」をテーマにした講座を開催し、参加者の方からご好評をいただいております。

秋のオープン・カレッジは、聖籠町「教養講座」（九月二十八日）、三条市「民族、宗教、国家を超えて」（十月六日）、本学「こどもとカップルの美術史1・2」（十二月四、五日、一月八、九日）の四つの講座を用意し、みなさまのご参加をお待ちしております。詳しくは、本学ホームページ（www.kewa-c.ac.jp）または、本学総務課（〇二五四・一二六・一三九四）までお問い合わせください。

（広報委員会）

オープン・カレッジのご案内

気軽に生涯学習を

オープン キャンパス



敬和の授業を体験（2003年度オープンキャンパス）

敬和の魅力体感！ オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスは、これから大学進学をお考えの高校生ならびに保護者のみなさまや、日ごろお世話になつております地域のみなさまに、大学の施設や講義を無料で開放し、敬和学園大学をよりよく知つていただく場となつております。今年度はすでに六月二十日（日）に第一回を終了し、今後も七月二十五日（日）、九月二十日（月）、十月二十四日（日）に実施します。

毎年好評をいただいている体験授業は、今年も更に内容を充実させます。加えて、サークル活動体験やネイティティブの先生方との語学交流、キャンパスツアー、無料ランチ等々、多数の楽しめるプログラムを用意します。

一〇〇五年度入試は、六月よりAO入試のエントリーを開始しています。「オープンキャンパス参加型」は、オープンキャンパスの参加後に、「体験レポート」（感想文）を提出することにより、本来二回の面談を一回で済ますことができます。AO入試に興味を抱いている志願者は、まずはオープンキャンパスにご参加ください。

その他の入試制度については、ホームページ（www.keiwa.c.ac.jp）で詳細をご覧いただくことができます。（入試室）

オープン・キャンパスおよび二〇〇五年度の入学試験についてのお問合せ・お申込みは、本学入試室（四〇一二〇・一六・三六三七）までお願いいたします。

寄付者ご芳名

一 九 九 九 八 〇 〇 〇 組	一般 丸山 中屋 義光	新潟信濃町教会、新井 明4
---	----------------------	------------------

学事予告

◆七月◆

日

農業市オープン・カレッジ④

敬和ボランティア・デイ

八日

農業市オープン・カレッジ⑤

十二日

前期講義終了

十五日

農業市オープン・カレッジ⑥

二十日

前期末試験（三十日まで）

二十五日

第二回オープン・キャンパス

三十一日

短期留学出発

アンゴロンチネンタル（九月六日まで）
ワシントンA.L.（九月五日まで）

八月◆

日

夏期休暇（九月二十三日まで）

前期集中講義（五日まで）

二日

訪問介護員一級養成講座

六日

英語科リフレッシュ・セミナー

九月◆

日

教育実習事前指導（八日まで）

六日

第三回オープン・キャンパス

二十八日

聖籠町オープン・カレッジ①

二十九日

前期卒業式

二十一日

後期講義開始

二十五日

三年生保護者との就職懇談会

二十九日

仁史

一九九三組

明4

大矢 康一

キャンパス日誌

4月

- 1日 学年始め
- 5日 入学式、保護者ガイダンス、後援会総会
- 8日 新入生歓迎公開学術講演会
講師 渡邊利雄 日本女子大学名誉教授
「日本のフランクリン」(写真)
- 9日 履修指導日、教科書販売 (~26日)
- 10日 前期講義開始、履修登録期間 (~16日)
- 14日 教授会
- 16日 チャペル・アッセンブリー・アワー①
説教 新井 明 学長 「落ち穂ひろい」
- 22日 入学記念植樹式
新入生オリエンテーション
於 胎内パークホテル (~23日)
- 25日 花絵プロジェクト イン しばた
- 26日 履修登録確認期間 (~5月6日)



5月

- 1日 チャペル・アッセンブリー・アワー②
説教 小淵康而 新潟信濃町教会 牧師 「信仰と財産」
- 12日 教授会
- 14日 チャペル・アッセンブリー・アワー③
説教：延原時行 宗教部長
「生命とは何か—ユバイツアーの答え」
講演：荒井 魏 客員教授 「日本人の原型にしたい良寛」
- 19日 新発田農業高校 花植えボランティア
- 21日 チャペル・アッセンブリー・アワー④
説教 金山愛子 助教授 「もしも、世界が100人の村だったら」
講演 E.S.S.スピーチ、K.I.V.サークル報告
- 25日 寺泊高校学校見学 (生徒3名、教員1名)
- 26日 卷総合高校学校見学 (生徒41名、教員2名)
- 28日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑤
説教 北垣宗治 前学長 「敬和はなぜキリスト教なのか？」
講演 共生社会学科開設記念講演会

共生社会学科開設記念行事

- ①講演会
講師 仲村優一 日本社会事業大学名誉教授
「世紀・千年紀の変わり目の福祉問題とソーシャルワーカーの役割」
- ②記念植樹 ③記念レセプション
- 理事会・評議員会
- 29日 新発田市オープン・カレッジ
「知っているようで知らない世界のお話」①
講師 北垣宗治 前学長 「ガリバー旅行記」(117名参加)

6月

- 1日 新発田市オープン・カレッジ②
講師 桑原ヒサ子 教授 「アルプスの少女ハイジ」(127名参加)
- 2日 教授会
- 4日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑥
説教 山田耕太 教授
「メル・ギブソンの『パッション』とレイブントの『パッション』」
講演 スティーブ・オーディン ハワイ大学教授
「人生行路の諸段階—キルケゴールと親鸞」
- 5日 スポーツ大会
- 6日 Japan Culture and Language Program (JCLP) (~19日)
(高校生 4名、大学生1名、引率教員2名)
- 8日 新発田市オープン・カレッジ③
講師 金山愛子 助教授 「赤ずきんちゃん」(132名参加)
- 10日 豊栄市オープン・カレッジ『食とコミュニケーション』①
講師 マーク・フランク 講師 「スローフード運動と私たち」
- 11日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑦
説教 助川暢 キリスト教独立学園高校長
「小さいことを心をこめてづけよう。-70歳の青年より 20代の青年へ-」
- 15日 新発田市オープン・カレッジ④
講師 若月忠信 教授 「桃太郎、瓜子姫、一寸法師」(139名参加)
- 17日 献血
豊栄市オープン・カレッジ②
講師 石川喜一 教授 「食と環境ホルモン」
- 人文社会科学研究所主催 敬和フォーラム (写真)
講師 山崎和明 四国学院大学社会学部教授
「反ナチ抵抗牧師の決断—ヒトラー暗殺計画・クーデタ計画—」
- 18日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑧
説教 山崎和明 四国学院大学社会学部教授
「イエス・キリストの恵みと神の愛」
- 19日 敬和学園大学オープン・カレッジ『絵本の世界 絵画の世界』
講師 松居直 児童文学者 (写真)
「言葉の力と美しさにふれる2」(~20日) (153名参加)
- 20日 オープン・キャンパス①
- 21日 創立記念日
- 22日 新発田市オープン・カレッジ⑤
講師 松本ますみ 助教授 「アラビアンナイト」(123名参加)
- 24日 豊栄市オープン・カレッジ③
講師 富川尚 講師 「首脳外交から見た食文化」
- 25日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑨
説教 延原時行 教授 「人間科学と神」
講演 星野淳雄 先生 (全国良寛会)「良寛さまのこころ」
- 新発田市オープン・カレッジ⑥
- 29日 講師 杉村使乃 専任講師 「不思議の国アリス」(125名参加)



KEIWA チャレンジ学生ファイル⑧



国際文化学科 4年

山 本 妙

「趣味」と「仕事」

初対面の人と話をすると、挨拶のように「アルバイトはしている？」ときかれる。私はそれに対し「話すと長くなるので…。」と、容易に答えることはない。実際話すと長いのだ。

私は石粉粘土（紙粘土と同じようなもので、よりきめ細かく丈夫な粘土）で小さなお人形を作り、実家が経営するアトリエで販売している。現在は、他に県内2店舗、新潟市内外のイベント・個展等で活動させていただいている。

この創作活動を「仕事」だと思い始めたのは最近のことである。それまでは、「趣味」の領域でしかなかった。楽しみながらついでにお小遣いが入る。そんな感覚だったのだ。しかし、将来のことを考え、創作を仕事にしようと決めた時から、私にとっての創作は「趣味」ではなく「仕事」になった。

「趣味」と「仕事」はイコールでは繋がらない。「趣味」なら自分の好きな時に好きなように楽しくやればよい。しかし「仕事」には責任と信用、プライド、そのための多大な努力が必要となる。そして必然的に苦悩がついて回る。もしそれを避けたければ、趣味は「趣味」のままで留めておくべきだ。

創作を「仕事」にしたことを探は後悔したことはない。なぜなら作品が売れた時の喜びは、以前のそれよりずっと上等だからだ。だから私は、やはり創作を「仕事」にしていきたいと思うのだ。